

64. クロガシラガレイ *Pleuronectes schrenki* (Schmidt) 図版26

英名 cresthead flounder

露名 リマンダ シレンカ лиманда Шренка

地方名(北海道) クロガシラ、クロガレイ、オキガレイ、アカガシラ

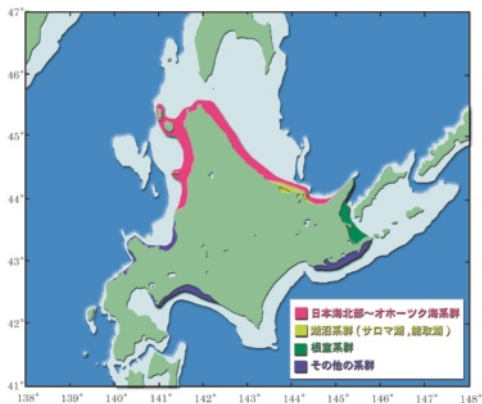
漢字 くろがしらがい 黒頭鱈

アイヌ語名 イロンネサマンペ、ヤイチェヘ、ヤツチェヘ

【形態】 両眼は右体側にある。吻*はやや突出し、口は小さく左右不相称で、肉厚の唇を持つ。有眼側*は赤褐色から緑褐色で、無眼側*は白色。背びれと尻びれに多数の黒色条紋がある。クロガレイによく似るが、クロガシラガレイは側線*が胸びれの上方でやや強く湾曲する点、咽頭歯*が鋭い円錐形で、狭く大きなV字状に分かれた咽頭骨*に並列に並んでいる点で明瞭に区別できる。うろこは雌が滑らかで雄が少しざらついていることから、魚体の表面を触るだけで雌雄が分かる。体長*は雌で45cm以上、雄で35cm以上になる。

【生態】 朝鮮半島沿岸、沿海地方からサハリン、千島列島、北海道、青森県に分布する。水深が100mより浅い砂泥底や砂れき*底に生息し、ときには汽水*域にも入る。高齢魚は比較的沖合に多い。石狩湾以北の日本海から知床半島北西側のオホーツク海沿岸に分布するものは単一の系群*である。この北部

日本海～オホーツク海系群の未成魚*は、オホーツク海沿岸に分布し、成熟*の進行に伴って秋から冬にかけてオホーツク海沿岸を北上し、宗谷海峡を通過して、春に石狩湾以北の日本海沿岸で産卵する。このほか、能取湖、サロマ湖にはそれぞれ独自の系群があり、根室系群やそのほかの系群もあると考えられている。



北海道におけるクロガシラガレイの系群別分布

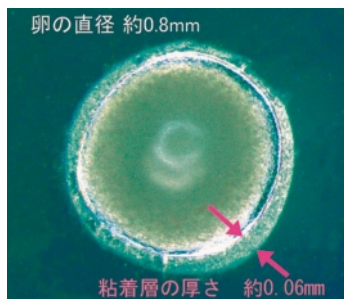
北部日本海～オホーツク海系群では、雌は3～5歳で、雄は3～4歳で性成熟*するが、サロマ湖では雌は4～6歳で、雄は3～5歳で性成熟する。卵巣は成熟に伴い、淡黄色から半透明な淡紅褐色を経てあめ色になる。抱卵数*は体長20cmで約40万粒、30cmで約80万粒。成熟卵* 1g当たりの卵数は4,000粒前後である。

産卵期は、太平洋沿岸とオホーツク海沿岸では4月中旬～5月中旬、根室湾では4月下旬～5月下旬、日本海の増毛地方では2月下旬～3月中旬。産卵が近くなると、雌雄ともにほとんど餌をとらず、水深が30mより浅く底質が玉石、砂れき、細砂の所に密集する。

卵はカレイ類にはめずらしい付着沈性卵*で、直径0.8mm前後、卵膜*の外側に厚さ0.06mm前後の無色透明な厚い粘着層*を持ち、粘着力は強い。水温4～6℃では、受精後12日目からふ化が始まる。ふ化直後の仔魚*は全長*2.1mm。浮遊生活に入り変態*終了後、15mm前後で着底*する。着底直後の仔魚は主にカイアシ類*を食べ、成長するにつれゴカイ類*、小型の甲殻類、ウニ類、貝類などを食べるようになる。

年齢は耳石*に現れる不透明帯*の数で分かる。雌は雄よりも成長が良く、さらに北部日本海～オホーツク海系群の方が、湖沼系群よりも成長は良い。サロマ湖産の体長は2歳で雌11cm、雄11cm、3歳で雌14cm、

クロガシラガレイ



クロガシラガレイの成熟卵

雄13cmになり、10歳以上の高齢魚もめずらしくなく、寿命は約14年である。北部日本海～オホーツク海系群は2歳で雌17.5cm、雄17cm、3歳で雌21cm、雄で20cmに達するが、8歳以上はまれである。これら系群による成長差の原因は、生息密度

や餌の量および遺伝的な違いなどが考えられるが、よく分かっていない。